

【資料2】

平成24年度 小城市立芦刈中学校 学校評価結果

1 学校教育目標
社会に貢献できる人材の育成 -「一歩前をめざすエネルギーに満ちた芦刈中学校」-

2 学校経営ビジョン
『教師の姿』 ○生徒とともにあり、教育愛に溢れる教師 ○生徒の個性伸長をめざし、常に自己研鑽に励む教師 ○職員相互の信頼をもとに、協働する教師
『生徒の姿』 ○進んで意欲的に学習する生徒 ○自他の生命を大切にする生徒 ○根気強く心身を鍛える生徒 ○礼儀正しく思いやりのある生徒
『学校の姿』 ○生き生きと躍動する学校 ○清潔で明るく美しい学校 ○地域に開かれた信頼される学校

3 本年度の重点目標	4 前年度の成果と課題
<p>① 学力向上対策の推進</p> <p>② 生徒指導の充実</p> <p>③ 小中一貫校開校に向けた研究・実践</p> <p>④ 開かれた学校づくりの推進</p>	<p>○職員相互の信頼関係が築かれ、協働意識を発揮できる質の高い教師集団づくりと、生徒ひとりひとりを大切にし、教師と生徒が温かく柔らかいまなざしで交流する学校文化を目標にしてきた。また、授業力の向上、生徒指導・教育相談における協働した指導体制、心の教育の充実、小中一貫教育の推進等、あらゆる場面において教職員が同じベクトルをもち、教育活動を推進することができた。</p> <p>○学力向上を目指した「家庭学習の充実」を最重要課題のひとつに位置づけ、より具体的な改善策を講じていくことが求められている。また、課題を抱える生徒には、学校に居場所を確保しながら、関係諸機関との連携をさらに深め、きめ細やかに対応していかなければならない。小中一貫校開校に向けて、PTAの合併に対する協議を深め、よりよいPTA活動に向けて、保護者の学校・PTA活動への参加意欲を高める手立てを講じる必要がある。</p>

5 総括表						
① 学力向上対策の推進						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	評価及びその理由	成果と課題
学校運営	○教職員の資質向上	・授業研究の推進	・全職員が一人1回は授業研究会を実施し、授業力の向上を図る。	・学習メソッドをもとに言語活動を意識したグループ活動を取り組み、生徒が主体的に学ぶ授業づくりを行う。	A すべての教諭が芦刈メソッドを用いた授業研究会(公開)を行い、言語活動の充実を視野において、グループ活動を多くの場面で組み込んだ授業をおこなった。その中で、生徒の思考力・表現力の向上に努めた。生徒や保護者からも指導力(授業力)向上について、90ポイントを越える一定の評価を得た。	引き続き、来年度の一貫校開校を視野にいれて、芦刈メソッドを用いた授業研究会(公開)を実施し、グループ活動の質をさらに高める具体的な手立てを講じ、生徒全体の学力の底上げを図っていく。
教育活動	●学力向上	・効果的な学習指導方法の研究	・県および全国学習状況調査において、県の通過率を上回る。 ・卒業時に、すべての卒業生が希望する進路を100%実現させる。 ・家庭学習の定着をさらに推し進め、保護者アンケートにおいて、「家庭学習習慣ができています」項目を70P以上とする。	・サマースクールや放課後学習会へより多くの教師が参加し、個別指導を行う。 ・月曜に7校時授業(授業時数確保)と合わせて定時退勤日(ノー部活デー・ノー残業デー)を設定する。 ・朝のスキルアップテストや週末課題に取り組ませる。 ・家庭学習支援カードを活用し、家庭学習状況を把握把握する。また、保護者との連携により、「家庭学習の手引き」の周知・活用をはかる。	B 月曜7校時の設定により、標準授業時数を確保し、ゆとりある教育課程の運営ができた。また、サマースクールや放課後学習会における個別指導を実施した。結果的に、全国学力・学習状況調査では国・数ともにB問題(応用・発展)が良好であった。県調査では、ほぼ県平均を維持し、各教科とも上昇傾向にある。しかし、家庭学習が定着しない生徒が固定化する傾向はあまり改善されていない。	来年度も月曜7校時(ノー部活デー・ノー残業デー)を設定し、新学習指導要領に対応した授業数確保を行っていく。保護者の評価も10ポイントほど上昇したが、まだ、60ポイント以下である。そこで、今後も生徒全体の学力の底上げを図るため、家庭学習の定着を目指す取り組みを引き続き行っていく。とくに、家庭学習に係る保護者を対象とした啓発的な講演会等を計画していく。また朝の時間を活用し、年間を通して継続的なドリル学習(スキルタイム)を行っていく。 さらに、来年度も夏休み休業中の学習会を開催し、地域の実情にあわせた学習の場を提供する。

② 生徒指導の充実							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	評価及びその理由	成果と課題	
教育活動	○生徒指導・教育相談体制の充実	・問題行動の減少と完全不登校の抑制	・問題行動等を減少させ、完全不登校の解消をめざす。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導委員会と教育相談委員会を毎週開催する。 ・配慮を要する生徒の情報のデータベース化による、共通理解と適切な支援を推進する。 ・教育相談へのSCや関係機関の利活用を進める。 ・学期当初や長期休業明けの教育相談体制と家庭との連携強化を図る。 	B	<p>毎週生徒指導委員会と教育相談委員会を開催し、情報交換・共有・共通実践を行った。家庭的な問題やコミュニケーション力の不足などで、特定の生徒に問題行動が見られはしたが、全体的に生徒は大変落ち着いていた。また、不応を示す生徒については、関係機関等との連携を強化し、本人や家族等への支援を継続してきた。現在も進行中である。</p>	職員全体が情報共有し、役割を分担し、共通実践ができたことが安定した成果につながっていると思われる。今後もきめ細かな対応を心掛けていく。 とくに来年度は不応等による不登校(傾向も含む)生徒への支援の強化が必要である。家庭環境に問題を抱えた生徒に対しては、今後とも関係機関と連携をしながら、保護者との信頼関係を深め、連携していく。
教育活動	●心の教育	・生徒の心を耕す教育の推進	・生徒や保護者アンケートによる「いじめ・人権・道徳」関連の項目において、昨年度以上の高い評価を得る。	<ul style="list-style-type: none"> ・多彩なゲストティーチャーを活用する。 ・系統的・継続的な人権・同和教育並びに道徳教育を実施する。 	A	<p>年度当初に、人権教育(同和・道徳教育を含め)の年間計画を確認し、機会を捉えて学級・学年・全校で生徒の心を耕す教育を実践してきた。QUTテストも年間2回実施し、学年・学級経営の中にその結果を活用する研修会も実施した。また、ゲストティーチャーの活用した行事は、体育大会や文化発表会、卒業式などの学校行事でも保護者や地域の方からも高い評価を得た。</p>	「心の教育」「心を耕す」ことを目標にした人権教育計画を年度当初に確認することが定着してきた。教職員の意識も高く、温かい集団づくりは、学力向上の基盤にもなるという認識の下、生徒の実態に応じた学級づくりを引き続き継続していきたい。行事の精選を行いながらも、年間授業時数を確保しつつ、心を耕す行事の重要性を再確認している。 また、可能な範囲でゲストティーチャーの活用を計画していきたい。
③ 小・中一貫校開校に向けた研究・実践							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	評価及びその理由	成果と課題	
学校運営	○小中連携の推進	・小中一貫教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・年間8回以上の合同研究会(授業研究会を含む)を開催する。 ・長期休業中に特別支援並びに教育相談に関する合同研修会を開催する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習メソッド、あしの子(生徒指導)メソッドを実践・検証する。 ・縦割り班による、小中交流活動を推進する。 ・行事等の一本化の企画・検討を行う。(小中合同体育大会を実施する) ・小中PTA合併に向けた協議を推進する。 	A	<p>コーディネーターを中心に、計画的に実践でき、ほぼ目標が達成ができた。特に今年度は児童・生徒の行事交流が一層促進された。</p>	校舎建築が始まり、新体育館は完成したが校舎建築工事が続く状況である。そのため、生徒の安全確保には十分配慮が必要である。 合同体育大会は初めて実施したが、保護者や生徒には好評であった。PTA合併についても総会を開催し、承認された。今後は具体的な事項の検討に入ることとなる。 小中交流活動も今年度の成果を踏まえ、改良を加えていく必要がある。
④ 開かれた学校づくりの推進							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	評価及びその理由	成果と課題	
学校運営	○学校経営方針	・学校教育目標の周知	・保護者アンケートで、周知率70P以上とする。	<ul style="list-style-type: none"> ・学校便り、学年・学級通信、保健便り、学校HP等すべての通信に学校教育目標を掲載し、周知徹底を図る。 	A	<p>全ての便りや学校HPに学校目標を掲載し周知徹底を図った。その結果、保護者の周知率は82.5ポイントで、昨年度を10P上回った。今後も積極的に取り組みを進めていく。</p>	昨年度は、学校からの便りが確実に保護者に届いていない実態も見られたが、今年度は学校便りなどは必ず家の人に見せているという生徒が、75ポイントになり、昨年度より10ポイントほど増加している。 今後もこれ以上の数値を目指していく。
学校運営	○開かれた学校づくり	・学校情報の発信と学校・PTA行事への参加率の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の情報発信に対する保護者の評価を80P以上にする。 ・学校行事、PTA行事参加数を昨年度より増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校からの情報発信の充実。(学校便り発行、学年・学級通信発行、学校HP更新の回数を昨年度より増やす。) ・地区青少年健全委員会への参加、情報交換を行う。 ・魅力ある行事の創造を行い、広報の仕方を工夫する。 	B	<p>学校便りの発行や学校HPの更新も頻繁に行い、学校からの情報発信については、保護者が91.5P、また教職員は(100P)と、とも高い評価を得た。しかし、行事等への参加については必ずしも多いとはいえない。</p>	2学期末の個人懇談には、ほぼ保護者全員の参加があった。今後とも多くの情報発信を行い、方法を工夫し、学校・PTA行事への参加率を向上させる。 今後は、合併PTAの発足を機に、保護者の学校行事への関心を高め、参加者を増やすような工夫を行う必要がある。

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	評価及びその理由	成果と課題
教育活動	●健康・体づくり	・健康・安全教育の推進	・健康安全に係る教育活動の充実を図る。 ・感染症への対応に万全を期し、発症が確認されても感染を最小限に防ぐ。	・防煙、性教育、薬物乱用防止等の講話を実施する。 ・年間を通して、感染症に対する危機管理と対応を啓発する。	A 具体的な方策にあげた講話等の行事はすべてを実施し、生徒の関心を高める効果を得ることができた。充実した活動ができた。	健康教育に係る教育活動は大変有意義であり大きな効果を上げることができた。防煙・性教育・薬物乱用防止等の講話ではすべてにおいて専門家の講師を招聘することができ、生徒の意欲関心も高まった。今後も継続的な取り組みを行いたい。 感染症予防については、全校あげて予防活動に徹したため、学級閉鎖などは全くなかった。
教育活動	○読書推進	・読書活動の推進	・学校図書館年間1人当たり貸出数を30冊以上にする。	・子どもの読書を推進する活動(読書マラソン、図書館まつり、読書週間等)を充実させる。	A 子どもの読書を推進する活動が充実し、学校図書館年間貸出数が1人当たり31.0冊であり、目標を達成できた。	1人当たり貸出数は昨年度を上回ったが、個別に見るとほとんど読書をしていない生徒もあり、個々の読書の質を向上させる必要もある。更なる啓発活動に努めたい。

6 総合評価
職員相互が信頼しあう職員集団を築き、同僚性・協働性を発揮できる質の高い教師集団づくりを目指してきた。また、生徒一人ひとりを大切に、教師と生徒・生徒と生徒が信頼関係を持ち、相互に認め合う学校文化を築くことを目標にしてきた。多忙な中にも授業力の向上、生徒指導・教育相談における協働の指導体制(すべての職員のフットワークの軽さ)、心の教育の充実、小中一貫教育の推進等あらゆる場面において、教職員が同じベクトルを持ち、教育活動を推進することができた。教職員の学校経営参画への意欲・満足度は94.1Pの高い評価を得ることができた。また、学校の生徒や家庭のニーズに応えることが出来ているかということについては、保護者から89.8Pの評価を得た。

7 来年度の改善策
来年度は、H26年度の小中一貫校の開校に向けて、ハード面・ソフト面共に更に充実を図らなければならない。そのため、これまで行ってきた小中合同活動に工夫・改良を加えていく必要がある。また、今年度の反省を活かし、学力向上をめざした「家庭学習の充実」についても重要課題の一つに位置付け、具体的な改善策を講じていく。さらには、不登校(傾向含む)生徒については、引き続き保護者や関係諸機関と連携を強化し、きめ細やかに対応していく。 合併PTAについては、保護者と協力態勢を構築するとともに、保護者の関心を高め、学校・PTA行事への参加率を高める手立てを講じていく。

●は共通評価項目、○は独自評価項目